

公益財団法人がん研究会

は、明治41年（1908年）

に創立された日本初のがん専門の研究機関です。付属病院の「がん研有明病院」も患者数が日本一のがん専門病院として有名です。

なお、東京のベイエリアにそびえるこの病院の外壁には「蟹（かに）」のシンボルマークがあり、印象的です。英語の「がん」を意味する「キャンサー」は、もともと蟹や蟹座を指すことに由来するからです。

そのがん研有明病院でも、がんの手術件数が大幅に減っていることが分かりました。例年、胃がんの手術は約500件、乳がんの手術は約1200件も行われています。しかし、昨年1年間の胃がんの

# がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

## 懸念される「超進行がん」

間違はなく手術が減っていると思います。

東京大学病院や国立がん研 究センター中央病院でも、胃がんの手術件数は大幅に減少しています。

がんは1センチの大きさになってようやく発見することができますが、この大きさになるには10〜20年の年月がかかります。しかし、1センチが2センチ

への感染拡大で、がん検診が大幅に減っています。例年なら見つかったがんが診断されず、早期がんを中心に手術が減ったものと思います。

私は37年間、放射線治療の現場で仕事をしてきましたが、最近、進行がんが増えていると感じています。

扁桃腺のがんがあごの骨や脳の近くまで広がったケース、直腸がんが肛門から飛びだしてしまったケースなど、これまで見たことがないような「超進行がん」を目にする ことが多くなっています。

「検診控え」による早期がんの減少と「受診控え」による進行がんの増加が同時に進んでいると心配しています。

（東京大学特任教授）

手術件数は前年より32%も減少しています。とくに問題なのは、最も早期のステージ1Aでは半分にまで落ち込んでいることです。

も減っています。昨年4〜12月では、2019年の同じ期間に比べて、全体で19%、ステージ1までの早期乳がんに限ると27%も減っています。

なるのはわずか1〜2年。この時期には症状が出ることはまれですから、がんを早期に見つけるには、定期的な検査が欠かせません。

昨年、新型コロナウイルス